

生徒から信頼される教師を目指して

(23 日間の生徒との交流を通して)

篠崎 保夫(千葉県立高等学校・教諭)

1 はじめに

私は、昭和 47 年に商学部に入學、3 年次修了後に、文学部英米文学科に編入し昭和 53 年に卒業した。学生時代は、1 年間英語部 (ESS) に所属し、その後仲間と共に LSE という英語サークルを立ち上げ活動した。文学部 4 年生の時に英検 1 級を習得した。

卒業と同時に、千葉県立高校の英語教師として教壇に立ち 36 年、平成 26 年 3 月で定年を迎えた。

しかしながら、青天の霹靂の事件が起きたのである。それは教員生活最後の年の 12 月に 3 年 X 組の担任が飲酒運転で 6 ヶ月の停職となり、担任が交代するというものであった。私は 11 月下旬に校長室に呼ばれ、校長より事の経緯の説明と 3 年 X 組の担任就任の依頼があった。しかし、進路室の自席に戻ると「退職まで後 3 ヶ月ほどの 60 才のおじさんが、18 才の生徒達と関わって良いのか。若い教師が担任を引き受けた方が良いのではないか。私は X 組の副担任ではなく、その隣のクラスの副担任でもある。本当に私でいいのか」との思いが浮かんできたのも事実である。

ともかくも、平成 25 年 12 月 19 日からの 3 年 X 組の担任生活が始まった。この実践記録は、12 月 19 日から翌年 3 月 7 日までの 3 年 X 組の生徒、そして保護者との関わりを記録したものである。彼らとの学校生活は実質 23 日間(3 年生が学校に登校した日数)であり、この間に稚拙ながら渾身の関わりをした私の教員生活最後の記録である。決して成功した事例とは言えないが、この拙い教育実践がこの論文を目にする方の教育活動に少しでも参考になればこれ以上の幸甚はない。

また、二度とこのような不祥事(飲酒運転に限らない)が起きることなく、生徒達に教師集団に対する不信感を抱かせることがないことを切望するものである。

2 生徒の動揺を抑え、卒業式を迎えるために何が出来るのか

11 月下旬に校長に呼ばれた後、私は、早速 ABC シートを活用した。ABC シートについては明治大学教育会第 5 号研究紀要にて触れているので、詳しくはそれを参考にして頂きたいが簡単に説明をしておく。A とは、現状を書き留めること(現在の問題点、足りない点、改善したい点等)、C とは目指すべき目標や到達点、ゴールと言えるものを書き留める、B には A を C にするために何が出来るのかと考案することである。

まず A の現状は、乱れたクラス(数名の生徒が担任などの指導に乗らないために、クラスの雰囲気非常に良くない)、今回の担任の行動に対しての不信や不満、これからのクラスがどうなるのかという不安。

C の目指すべき目標として、今回の問題から生徒達の高校生活が不安定になることなく生活に集中できること。そして卒業式までにはこのクラスで良かったと思えるように、今

後もこのクラスの友情が続く快適な人間関係を構築する。

Bの方策として思いついたのは、次のようなものであった(実行できるかどうかは別としてとにかく思いつくことを書き出した)。

- ①3年組のクラス名称を作る
- ②クラス通信を発行する
- ③集合写真を撮り掲示する
- ④今までのこのクラスの生徒のスナップ写真を掲示する
- ⑤全員と面談をする
- ⑥年賀状を全員に出す
- ⑦クラスの中心軸を誰にするか(誰を変えれば、クラスがまとまるのか)
- ⑧その他(臨機応変な心の交流のための対応)

・具体的な実践概要(詳細は後述)

- ①3年X組を「夢集団」とした。また、スローガンとして「伝説になる」とした。
- ②クラス通信「Legend」を発行した。
- ③平成26年1月の3学期最初の日に、クラスの集合写真を撮り、教室に掲示した。
- ④3年X組のスナップ写真(一人も漏れなく)120枚程を、教室後部の掲示板にラシヤ紙3枚を使用し貼りだした。
- ⑤全員と面談をする時間を残念ながら持つことは出来なかった。今まで指導に乗ることが出来なかった生徒(5名:以後ポテンシャル5と呼ぶ)とは、短時間ではあるが懇談指導をすることが出来た。また、毎日の学校現場で出来るだけ声をかけるようにした。
- ⑥副担にも協力してもらい、担任と副担二人から年賀状を出した。
- ⑦ポテンシャル5のうち、2名が特に学校に対して反抗的であり、この二人との信頼関係を築けることが大事であると考えて行動した。
- ⑧メールや留守番電話を使っての意思の疎通を図った。

3 具体的実践(詳細)

具体的な実践を述べる前に、担任交代の流れを簡単に述べてみたいと思う。平成25年11月下旬に校長から担任交代の話があったが、12月18日までA先生がX組の担任を務めて、翌19日から私が担任を務めることとなった。生徒達は18日まではこの担任交代の件を全く知らされておらず、19日の朝のHRで新担任の私と副担任S先生の同席の下、教頭先生からの話があり、初めて今回の担任交代の事実を生徒達は知った。この事実を聞き生徒の中には、「いつも説教を垂れているのに何だよ」とか、ポテンシャル5の中にはここでは書けないような口汚い言葉を言う生徒もいた。以下に具体的な実践を述べる。

●12月19日～31日の関わり●

12月19日

初めてのHRが始まる前に、私と副担任のS先生の二人で、以前作成しておいた「夢集団」「伝説になる」と大書した模造紙を黒板に張りだした。教頭の話に続いて私が話す番になった。3年X組から「夢集団」に変えた理由は、彼らに今回の事に動揺するのではなく、前を向いてほしいという思いからである。

その時の思いを表すために、クラス通信「Legend」の創刊号を生徒に渡した。

また、このクラス通信は担任からの一方的な訴えではなく、生徒と担任、保護者と担任との気持ちの交換の場であることを話し、クラス通信「Legend」原稿用紙と一番下に書かれたオリジナルの原稿用紙を渡した。そして、自宅に帰り今の素直な気持ちを書いて翌日に提出するように指示をした。

放課後に、写真部部长K君(私は写真部の顧問をしており、彼はたまたまX組に所属していた)と同じく写真部員のMさん、アルバム委員のFさんとIさん、さらに応援でKさんの計5名で模造紙大のラシャ紙にX組のスナップ写真を貼り付ける作業をしてもらった。このスナップ写真は、私がアルバム制作の係をしており普段から撮りためたものであり、数千枚の中からX組の生徒だけを全員が漏れることがないように選んだ。スナップはクラス別に撮影しているわけではないので、X組の生徒を見つけるのは大変な労力を必要とした。12月18日までの空き時間はほぼこの作業に費やした。この日は、1枚のラシャ紙に写真を貼り、早速クラスの教室の掲示板に、少しでも心が和み生徒が落ち着きを取り戻すことを祈り、「夢集団・あの日あの時」という題字と共に、掲示した。これは、写真にいたずらをするかで、彼らの心の安定度を知るためでもあった。

12月20日

いよいよ終業式となる。LHRの30分間、私は成績不振者(ポテンシャル5の全員が該当していた)のA君、N君、さらにY君と会議室にて懇談を持った。旧担任が飲酒運転で担任を退いたことに対しては不満を持っていたが、私はしっかりと卒業するように、そのためにも卒業試験に全力を尽くすように話をした。N君にはカフェオレを出してあげた(A君とY君は遠慮してか希望しなかった)。これが私流の面談の時のもてなしである。いつも効果があるとは限らないが、例え、その生徒の成績が悪かろうが、問題行動を起こそうがコーヒー一杯でもいい、ジュース一杯でもいい。対等の人間としてつきあうシグナルとしてのささやかなもてなしであり、私の経験から是非お勧めしたい。

生徒全員に対して、私の思いと自己紹介を扱ったクラス通信「Legend」2号を配付した。

放課後に、昨日と同じ生徒達にお願いし、2枚目の写真・「夢集団・あの日あの時」をラシャ紙に貼り付け、教室に掲示した。

12月21日

本日よりいよいよ冬休みに入り、成績不振者の保護者との面接が始まった。前述したよ

うに、今まで指導に乗ることが出来なかったポテンシャル5が、成績不振者にも重なっていた。紙面の都合で二人の生徒の保護者との面談の概要を後ほど述べる。

12月23日

「夢集団」全員へ年賀状を投函する(一人の生徒が喪中の為に、自宅まで行き年賀状を手渡す)。少しでも生徒との心のパイプが繋がればとの思いを込めて年賀状を出したのではあるが、その効果は定かではない。教育活動の効果が目に見えて分かる場合は少ないのかも知れない。

12月24日

Y君の母親とカフェオレをお出しし面談する。成績不振なので頑張るように生徒本人への激励をお願いした後、母親から見た彼の良さを聞く。母親が病気の時には、枕元に花を飾ったり、母の日や誕生日にはプレゼントを贈ってくれるとのこと(普段の学校生活からは全く分からない彼の面を知ることが出来た)。小学校や中学校の時には、悪いことをして学校に呼ばれることが多かったとの話もしてくれた。

12月30日

午後4時にO君の母親と面談する。母親の仕事の都合で年末のこの時期となった。誰もいない学校の鍵を明け、会議室に暖房を入れて母親をお待ちした。成績不振を挽回するようにお願いした後、カフェオレをお出しし、息子さんの良さを伺った。面談中黒の手袋をはめていたが、カフェオレを勧めると初めて手袋を恥ずかしそうに脱いでカフェオレを口にした。母親の爪には綺麗なネイルアートがされていた。これから夜の仕事があるので、その為にネイルアートをしていたのであろう。それを見られるのが嫌で手袋をしたままにいたのが分かった。カフェオレを出さなければ、ちょっとマナーに反することだと思ってしまっただろう。後日談ではあるが、1月の3学期が始まった初日の朝のHRの時、普段は話しかけてくることのないO君がわざわざ私のいる教壇まで来て「言いたいことがある。おっかあーが先生にご馳走になったコーヒーが美味かったって。それだけ」と話してくれた。この一杯のカフェオレが母親の心に少しでも響いてくれたことが嬉しかった。親が学校に呼ばれる時は大抵、何か悪いことをその子がしたためであり、そんな時にお茶の一杯も出されることはないだろう。でも、親を責めることは教師のする仕事ではないのはいか。親も苦しんでいるのだと思う。その親に寄り添いたい気持ちが一杯のカフェオレなのだ。みんな人間なのだから、心と心が繋がらないはずはないと確信を深めることのできた事例である。

●1月1日～31日までの関わり●

1月1日

「夢集団」の全員に年賀状が届いたと思われる。I君より年賀状が届いた。彼は、前年の夏休みに何故か気になり、一緒に釣りに行った生徒である。当時は隣のクラスであり、今

回の事で彼の担任になるという不思議な巡り合わせである。大人しい生徒であるが、色々な意味でクラス経営を助けてくれた。

1月6日

写真部部长K君に登校してもらい、3枚目の「あの日あの時」を完成し、教室に張り出す。教室の後ろは、3枚のラシヤ紙に張り出された生徒達のスナップ、教室前面には「夢集団」「伝説になる」の大書き。イメージ通りのクラスの雰囲気が出来た。いよいよ明日から3学期が始まる。

1月7日

3学期の始業式。昨年の12月20日に、生徒から回収した原稿を纏めたクラス通信「Legend」第3号を配付する。担任交代に対する生徒の意見が載った初めてのクラス通信であり、皆関心を持って目を通して印象的であった。その内容は、敢えて全く担任交代のことには触れずに、自分のこれからの決意だけを述べるものもあった。この事件を悲しみ、驚いている彼らの思いの一部をここに紹介する。

- ・私はもうすぐ伝説になるんだ。
- ・A先生も一人の人間なんだなと実感しました。この件で学んでこれからは飲酒運転は控えようと思います。
- ・突然のA先生の飲酒運転の話聞いて驚きました。よく、A先生には怒られることが多かったですが、実際にいなくなると少し寂しく感じました。
- ・A先生も人間なんだなあと思いました。ある意味伝説の3X.
- ・1年2年3年とA先生が担任で、色々な事があったけど、1番世話になった先生だと思えます。正直、複雑な気持ちだけど卒業までの少しの時間を楽しみたいと思えます。
- ・突然のことで驚きですが、残りの生活も平和に楽しく過ごせたら良いと思えます。卒業まで何事ありませんように。
- ・担任はなぜ代わった？どこいった？
- ・3年間担任だったはずなのにびっくりした。

とにかく、生徒の書いたものを掲載することがクラス通信の醍醐味であることを再確認した。ポテンシャル5のうちのO君とA君は文章のイニシャルが誰なのか興味津々であった(書きづらいこともあるので、氏名はイニシャルでも良いことにしていたため)。

放課後、I君(昨夏、一緒に釣りに行った生徒)と卒業式までの登校日数のカウントダウンカレンダー(日めくり式)を作成する。彼にとって思い出になればと思いつつ、絵をお願いした。作成後に、彼と一緒に教室に行きそのカレンダーを飾り付けた。

また、アザリヤの2つの植木鉢が少しでも生徒達の心を和ませることを祈りながら、教室前の机の上に置いた。

この日より、欠席者との連絡に忙殺される日々が続いた。特にポテンシャル5は成績も不振であり、実質12日間しかない1月は1日でも休めば授業についていけない事態になる。

また、提出物も提出できないことにもなる。そういった意味でも気の抜けない日々であった。家庭に連絡を入れたり、生徒の携帯電話にメールを入れたりした。返事が返ってこないことも度々あった。そして、登校した日には多くの問題行動があった。紙面の都合で2、3のエピソードを紹介したい。

エピソード①1月15日

学年主任が教室に来て指導に当たる。学年主任に対しては、普段より従順な態度でポテンシャル5は接していた。A君はその事を指摘されると、激昂してしまう。腕力のある人間には従順になる。誰にでも、正しい指導には従ってほしいものである。N君は欠席。雪がちらつく非常に寒い一日である。

エピソード②1月21日

初めて全員が揃った。A君が何故か教室で机を放り投げ暴れた。落ち着くように指導する。A君は、私が彼の投げた机を元に戻すのを黙って見ていた。翌日、1限目の私の英語の授業でA君は課題をこなしていた。昨日とは違い落ち着いた感じで、私によく話しかけてきた。授業最後の号令の時に、座っていたので立つように声をかけると「ごめんなさい」と初めて素直に答えた。

エピソード③1月26日

A君とO君に試験を頑張るようにメールを打つ。返事はないが、見ていることがほとんどであり、頑張ってくれることを祈る(後日会った時に、メールのお礼を貰う)。

●2月1日～3月7日(卒業式)の関わり●

1月31日より3月3日までの長い家庭学習期間に入る。交通事故などの事故・事件がないか心配はつきない時期となる。

2月5日

卒業文集の表紙をAMさんに電話で依頼する。少しでも多くの生徒に様々な作業に参加してもらい思い出を作してほしい。

2月6日

お願いしていたI君が卒業文集のワープロ化の為に登校してくれる。コーヒーとキットカットを食べながら、一緒に仕事をする。

一番卒業が危ぶまれたO君の母親に、O君が赤点もなく卒業試験に合格したことを電話で伝える。母親より「担任が代わってからは息子が反抗的な感じがなくなった」との言葉を頂く。休み中の息子さんの安全を母親に願います。

2月8日

卒業の目途がついた旨の葉書を夢集団全員に投函する。

2月15日

大雨が降り洪水注意報が出たので、その地域に住んでいるA君にお見舞いのメールをする。後日「オレンチは少し離れているから何でもなかったよ」と教えてくれた。

3月4日5日6日

ポテンシャル5の欠席が目立つ。本人と家庭への連絡が続く。

3月4日に「担任のA先生へのお別れの言葉」という題で作文の課題を出す。これはそのままA先生にお渡しする事になるもので、そのことを考えて書くように指示する。ほとんどがA先生に対する感謝と今回の担任交代を残念がる内容であった。生徒の旧担任に対する愛情を痛感する内容であるが、その反面このような事件を起こしてはならないと再確認する事となった。2名の文章をそのまま紹介したい。

Fさん：先生、お元気にしていますか。何も教えずに姿を消すなんて、、、。本当にびっくりしましたよ！親も「A先生は良い先生だったのになー」って何度も言ってますよ。卒業式は先生来ちゃダメなのかな？せっかく2年生の時からお世話になっているので、最後は顔を見てお別れしたいです。今まで有難うございました。

T君：2年間ありがとうございました。卒業式は先生に名前を呼ばれたかったので非常に残念です。社会では先生から教わった事を生かしていけるよう頑張っていきたいです。

3月7日

40名無事卒業となる。卒業文集(20年後の私に)を配付する。

文集の中のポテンシャル5の文章を紹介したい。

A君：20年後にこうなっていたいとかは特にありません。立派な大人になっていることを願います。高校生活をやり直せるなら、停学になりたくなかった。最後まで野球をやればよかった。何事も頑張れ。

O君：20年後の自分へ。文集もらえてますか。卒業出来ましたか。金はいくら持ってますか。仕事は続いていますか。

K君：人生を楽しもう！

N君：私は、20年後ダンプの運転手になっていると思います。家族と一緒に幸せになっていたらいいなと思います。20年後は自分は生きているか分かりません。先の事は分かりません。20年後になる前に頑張って良い20年後になっていれば最高だと思います。20年後には日本の47都道府県に行けていたらいいなと思います。

Y君：20年後の私は何をしていますか？仕事をまだ続けているのかな？それとも、新しい仕事を見つけて、給料を上げているのか。分かりませんが、とにかく結婚はしてほしいと思います。楽しくて良い家族を作るために、一生懸命働いて、月給を上げて奥さんや子供達が楽しく生活できるように支えてください。

4 終わりに

突然の担任交代の中で、自分なりに生徒のことを考え行動したつもりであるが、「夢集団」にとって最高の行動が出来たのか自信はない。何もせずに静かに彼らと関わっていた方が良かったのかもしれない。

しかしながら、私の行動そして関わりに何かを感じてくれた生徒もいたことに安堵したのも事実である。生徒が『「夢集団」への感想』という題に対して書いた中の1つの短い文

章をここに紹介したい。

NT君：夢集団になってみて始めは戸惑っていましたが今は、特に違和感なく過ごしています。先生が代わってからは、後ろの写真や黒板の上のパネルなど、ユニークな物ばかりで驚かされていました。短い間でしたが、有難うございました。夢集団での思い出は忘れません。

雑感：平成 26 年 3 月の卒業式が終えてからも、教員の不祥事が続いている。小学校校長の覚醒剤の使用の報道もあった。飲酒運転や金銭横領などの不祥事も後を絶たない。どれだけ、生徒児童を裏切り続けるのか。人間として当たり前のことであるが、人の道を説く教師として日々自分を磨き続けたい。生徒に信頼される教師への道は、生徒の可能性をどこまでも信じ、生徒の幸福を考え、「誠実に生きること」ではないか。「授業がうまい。話が面白い。一生懸命。」それらはまず「生徒の幸福を願う誠実さ」があつての事ではないか。その「誠実さ」が自制ある行動を導くのではないか。